
上部消化管内視鏡検査を受けられる方へ

当クリニックでは、上部消化管内視鏡検査の実施に当たり文書にて検査の内容や危険性を説明し、その上で同意書にご署名を頂いております。

【検査の目的】

食道・胃・十二指腸を内視鏡で観察し、必要があれば病変の一部を採取して組織検査を行います。ただし、抗血栓薬(血液サラサラの薬)を2剤以上服用中の方は、出血のリスクがあるため組織検査は実施できません。

【検査の方法】

- ①前処置の後、左を下に横向きになり、内視鏡を口または鼻から挿入します。
- ②内視鏡が喉を通る際に違和感や嘔吐反射が起きることがありますが徐々に慣れていきます。
- ③検査時間は5～10分で、胃に空気を送って膨らませながら観察していきます。

【鎮静剤について】

内視鏡検査中の苦痛や不安感をできるだけ軽減するため、鎮静剤を使用します。ただし全身麻酔の様に完全に眠った状態になることはありません。また、効果には個人差があります。鎮静剤を使用せず検査を受けることは可能ですが、検査に苦痛を伴う場合があることをご了承下さい。妊娠中や妊娠の可能性のある方に鎮静剤は使用できません。授乳中の方は、24時間授乳ができなくなります。なお、鎮静剤を使用しての経鼻内視鏡検査は安全上の観点より実施しておりません。

【検査後の注意事項】

- 検査後1時間以上経って、特に変わりがなければ水分や軽食を摂っても構いません。
- 鎮静剤を使用した場合、当日は車・バイク・自転車などの運転は絶対に出来ません。
 - 組織採取を実施した場合は、検査当日と翌日は飲酒・刺激物の摂取は出来ません。
 - 検査終了後には、極力予定を入れないようにして下さい。

【検査に伴う偶発症】

喉の痛みや違和感、まれに重篤な偶発症を起こす事があります。

- 咽頭麻酔によるアレルギー
- 内視鏡検査、組織検査による出血や消化管の損傷、穿孔(穴が開くこと)など
- 鎮静剤の投与による、注射部の炎症、皮下出血、筋障害、神経障害、静脈炎、血圧低下、ショック
呼吸抑制、呼吸停止、薬疹、嘔気・嘔吐など

日本消化器内視鏡学会では、上部消化管内視鏡の偶発症の発生頻度は0.005%と報告されています。ごくまれに死亡例の報告もあります。鎮静剤に関連した合併症による死亡率は約330万人に1人でした。

万が一、偶発症が生じた場合には当クリニックでできる最善の処置を致します。

入院や緊急の処置・輸血・手術などが必要になった場合は、当クリニックから入院治療できる病院へ紹介し、その際の診療は保険診療にて行います。

以上の内容をご確認頂いた上で検査に同意された方は、同意書に自筆でご署名の上、検査当日にご提出ください。ご同意を得られない場合には検査を行いません。検査を受けないと決断された場合は、事前に当クリニックまでご連絡ください。また、同意書を提出された後でも検査を中止することが出来ます。